



安心のネットワーク

NOSAI

病害虫防除指導報

第378号

令和8年6月24日

発行

秋田県農業共済組合
県北支所 農産課

☎0186-84-8376

作業状況と気象経過

〈作業状況〉

右表は、今年の田植え時期と平年差を示しています。田植え作業は、開始時期が5月13日、盛期が5月20日、終期が5月28日と、ほぼ平年通りを推移しました。

〔田植え作業状況〕

	能代山本郡	
	月日	平年差
始期	5月13日	-1日
盛期	5月20日	-1日
終期	5月28日	±0日

〈気象経過〉

アメダスの気象情報（6月11日現在、能代）によると、本年は5月から6月にかけて、最高気温が25度を超えた日及び最低気温が10度以下になった日が多く、その日の気温差が大きい傾向にありました。また、継続的に雨が降らない日が続き、日照時間が平年より多く推移しました。

水管理と中干しで分げつ促進を！

〈水管理・中干しとその後の作業〉

茎数の確保状況は、ほ場によって差が見られます。目標収量確保のため、分げつ発生を促す水管理を行い、早期の茎数確保に努めてください。分げつの発生は昼夜の水温較差が大きい場合に促進されます。浅水管理を行い水温と地温を高めて日較差を大きくします。その際には田面が露出しないように注意してください。入水は水温の低い早朝に短時間で行い、日中は止水管理を行いましょう。

中干しは、無効分げつの発生を抑制するとともに、根の活力を高めて1穂粒数と千粒重を増加させる効果があります。各ほ場の生育状況を見ながら中干しを行ってください。落水やその後の入水をスムーズに行うため、溝切りを行ってください。

中干し後、稲穂が出始める直前の時期（幼穂形成期）は、稲が最も水を必要とします。水を張るかん水と、水を抜く落水を2～3日おきに繰り返す間断かん水を行い、根に酸素を供給するよう努めてください。

紋枯病の防除対策

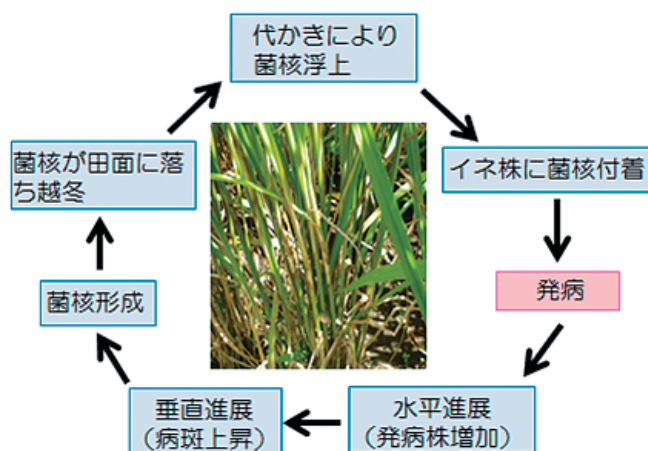
〈前年発生ほ場は要注意〉

紋枯病は、高温・多湿の気象条件では上位葉まで病斑が進展しやすいという特徴があります。病斑が多発した年の翌年は発生が多い傾向にあるため、前年の収穫期に発生が多かったほ場では十分に注意してください。

〈防除の必要性の判断〉

穂ばらみ期～出穂期の発病株率が15%を超える場合は減収のおそれがあるので、出穂直前～穂揃期に茎葉散布剤による防除を行います。（発病株率が15%以下の場合は、防除の必要はありません）粒剤の散布時期は茎葉散布剤よりも早く、前年多発した圃場では、出穂15～5日前にリンバー粒剤、又は出穂20～10日前にモンガリット粒剤を散布します。

紋枯病の発生生態



	農 薬 名	散布時期	散布量（10a）又は 希釈倍数
茎葉散布剤	バシタック水和剤 75	出穂直前～ 穂揃期	粒剤・DL 3～4kg 液剤 1,000 倍 ゾル 800～1,000 倍 水和剤 1,000 倍 フロアブル 1,500 倍
	バシタックゾル		
	バリダシン粉剤 DL		
	バリダシン液剤 5		
	モンカットファイン粉剤 20DL		
	モンカットフロアブル		
	モンセレン粉剤 DL		
	モンセレンフロアブル		
水面施用剤	モンガリット粒剤	出穂20～10日前	4kg
	リンバー粒剤	出穂 15～5 日前	

斑点米カメムシ類への対策

秋田県病害虫防除所の発生予察によると、本年の斑点米カメムシ類の発生時期は早く、発生量はやや平年並みと予想されています。斑点米カメムシ類は稲の出穂期頃から水田に移動して成・幼虫が登熟期の割れ籾の隙間から吸汁加害します。加害を受けた玄米は斑点を生じて品質が低下します。割れ籾が多くなるとそれに比例して斑点米も多くなる傾向があります。水田内及び農道・畦畔の除草を徹底し、適期の本田防除により斑点米被害を回避することが重要です。

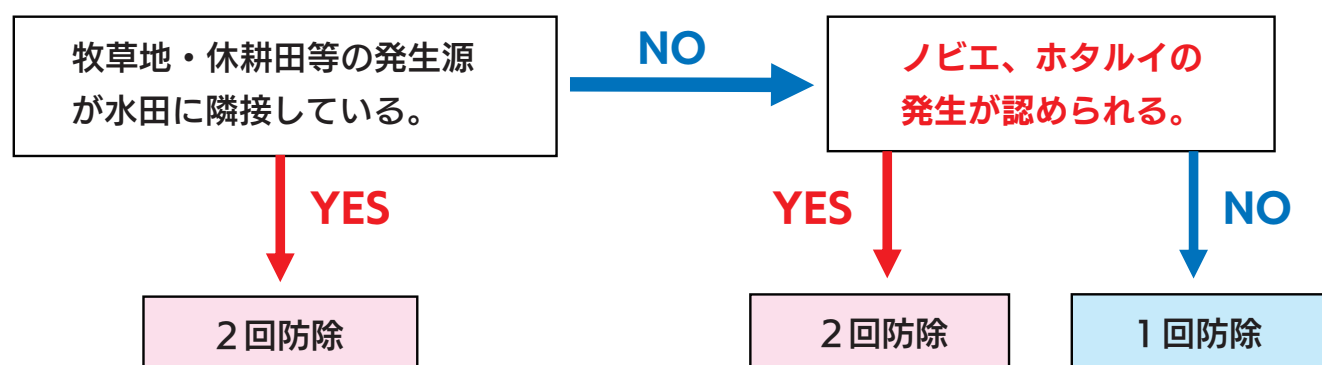
特に「あきたこまちR」、「秋のきらめき」は、割れ籾が多く、斑点米の発生が多くなりやすいため、適切な防除に努めてください。

〈クモヘリカメムシが発生しています！〉

昨年、本県では確認されなかった「クモヘリカメムシ」の発生が、県南地域で確認されています。体長が15～17mmと、本県主要種のアカスジカスミカメのおよそ3倍あります。県北エリア内での確認はありませんが、今後十分に注意してください。

〈薬剤による防除方法〉

発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田に隣接したほ場、発生予察情報に基づき多発が予想される場合は、2回防除を必ず行ってください。クモヘリカメムシが県北管内で確認され、防除が必要になった場合は、アカスジカスミカメなどの本県主要種と同じ薬剤、方法で防除を行ってください。



- 1回目茎葉散布剤：出穂後10日後頃
スタークル・アルバリン粉剤 DL、液剤
- 2回目茎葉散布剤：出穂後24日後頃
キラップ・エクシード粉剤 DL、フロアブル



稲こうじ病の防除対策

〈稲こうじ病の特徴と防除対策〉

本病は年次や作型にかかわらず同じほ場内で発生しやすい傾向があります。穂ばらみ期に降雨により葉鞘内が多湿になると、局在していた病原菌が幼穂に侵入し、出穂後に発病します。

薬剤による防除適期は出穂の20～10日前です。発病が確認できる出穂後の防除対策はないため、予防に努めてください。防除効果が高いのは銅剤（ドイツボルドーA、ボルドー）ですが、薬害リスクがあるので注意しましょう。また、前年多発したほ場は本年也多発する可能性が高いため、散布の遅れが無いように、適期に防除しましょう。



稲こうじ病を発病した稲

⚠️ イノシシやツキノワグマなどの獣害に注意 ⚠️

例年、本県ではイノシシやクマなどの野生獣による農作物の被害が相次いでいます。本県では、4月14日に発令したツキノワグマ出没警報を7月31日まで延長しています。（秋田県公式サイト：美の国秋田ネットより）夏場はクマの食物資源が少なくなることから、出没が頻繁化します。本年も、農作業中、クマによる人身事故が県内各地で発生しています。イノシシは、畦畔を掘り崩す他、ほ場内に侵入し、土壌を荒らします。



昨年5月末 能代市 イノシシ被害

こうした野生獣には、電気柵や金網柵による物理的な遮断、草刈りによる隠れ場所の排除等が有効です。獣害から農地、作物を守るため、適切な対策に努めてください。

日々の情報収集も大切です。秋田県の公式サイトではツキノワグマに関する情報を発信している他、インターネットでツキノワグマ等情報マップシステム「クマダス」※¹を運用しています。ツキノワグマやイノシシ、シカの出没情報や農作物被害、人身事故の記録をリアルタイムで閲覧することができるので、有効活用しましょう。

〈対策グッズのご用意を！〉

クマ用スプレー

鈴

爆竹や火薬銃など、大きな音が出るもの



※¹ツキノワグマ等情報マップシステム【クマダス】URL <https://kumadas.net>